

るもいの平和啓発事業

平和の集い

『留萌市平和祈念式典（戦没者・殉難者追悼式）』
戦没者や戦争犠牲者の追悼にあわせ、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和の大切さを改めて思いおこしてほしいという思いを込めた式典です。ご遺族だけでなく、多くの市民のご参列をお願いします。

- 日時 8月19日(金) 午後1時～
- 場所 留萌市文化センター
- 参加対象 留萌市民、戦没者及び殉難者の遺族 等
- 内容 式辞、黙祷、献花、平和宣言朗読 他
- その他 参列される方は、午後0時50分までに受付をして下さい。

戦没者追悼のサイレンの吹鳴で、1分間の黙祷をお願いします

- 全国戦没者追悼式 8月15日(月) 正午～
- 留萌市平和祈念式典 8月19日(金) 午後1時10分～
- 北海道戦没者追悼式 9月8日(木) 正午～

原爆写真資料展

- 『広島・長崎原爆パネル展』
- 日時 8月6日(土)～8月21日(日)
 - 場所 留萌市中央公民館ロビー

市立留萌図書館で開催する事業

- 『アニメ・記録映画上映会』
- 日時 8月4日(木)～8月28日(日)
 - 対象 留萌市民 他(無料)
 - 内容 はだしのゲン(児童向けアニメ)
火垂るの墓(児童向けアニメ)
あゝひめゆりの塔(一般向け)
禁じられた遊び(一般向け)
戦争が終った夏に(一般向けアニメ)
慟哭の証言(一般向け記録)
愛と死の記録(一般向け)

上映時間等の詳細は、お知らせの図書館コーナー(17ページ)でご確認ください。

- 『おすすめ本コーナー：悲しい戦争』
- 日時 8月3日(水)～8月30日(火)
 - 内容 ちいちゃんのかげおくり(子供向け)
凍原の思い出(一般向け)

- 『平和資料展：語りつぐ戦争』
- 日時 8月3日(水)～8月30日(火)
 - 内容 樺太引揚三船遭難の資料や空襲の記録、軍人の体験記を展示。

このほかに、緑丘小学校と留萌中学校で、児童・生徒等を対象に『サダコと折り鶴ポスター』巡回展を開催します。

平成17年度 留萌市平和記念事業

恒久平和を願って

- 戦争のない未来へ -

平和の大切さを
後世に伝えるために

昭和20年8月6日、
広島に人類史上初め
て原子爆弾が投下さ
れてから今年で60年
を迎えました。

留萌市においても、
同年7月15日に米軍艦載機による空襲が
あり、留萌駅構内の機関車や留萌港の貨物
船、民家などに約30分間の攻撃が加えられ、
数名の死傷者を出しました。

留萌市では、戦争の悲惨さや平和の尊さを
永く後世に語り継ぎ、世界の恒久平和を
実現するために、昭和59年に『平和都市宣
言』を行いました。

これまで、留萌市では地球上から永久に
核兵器が廃絶されることを願って、『広告
塔』や『平和の塔』の設置、平和大使派遣事
業、『原爆写真・ポスター展』、戦争記録映
画上映など、様々な事業を展開してきま
した。しかし、世界各地で争いが絶えるこ
とはありません。

私たちは、先の大戦から学びとった多く
の教訓を改めて心に深く刻み込まなけれ
ばなりません。

そして、世界の恒久平和の確立と、希望
に満ちあふれ、心豊かに暮らせる社会の実
現のために、次の世代に平和の大切さを伝
え、一人ひとりが責任ある行動
をすることが大切です。



留萌市平和都市宣言

留萌市は次のとおり平和都市となることを宣言する。
真の平和を希求することは、人類共通の願いであり、この崇高な理想実現のため、常に努力を続けて行かなければならない。私たち市民は、今日の緊張した国際情勢を認識し、我が国の非核三原則の堅持はもとより、核戦争の脅威を排除するために、地球上から永久に核兵器が廃絶されることを願うものである。
ここに、留萌市は恒久の平和を願い幸せな市民生活を守る決意を表明し、非核平和都市を宣言する。
(昭和59年5月3日)



『広告塔』浜中跨線橋付近
(国道231号)



『広告塔』三泊漁港付近
(国道232号)



『広告塔』峠下駐車帯付近
(国道233号)



『平和の塔』南町1丁目駐車帯
(国道233号)

トピックス

上記のほか、平和関連行事について、『エフエムもえる』の「おもいきり留萌市」で放送します。
■日時 8月8日(月)午前9:45～

お問い合わせ

お問い合わせは、下記の連絡先までお願いします。
平和都市宣言・原爆写真資料展について
市総務行革課 ☎42-1801
平和の集いについて
市社会福祉課 ☎42-1807
図書館で開催する事業について
市立図書館 ☎42-2300

留萌であった史実 『三船殉難』事件

終戦直後、留萌沖で、あの有名なタイタニック号の死者数を上回る犠牲者を出した三船殉難事件がおきました。終戦から1週間が過ぎた昭和20年8月22日、サハリン(樺太)から引揚げる避難民を乗せた三船が小樽方面に航行中、国籍不明の潜水艦の魚雷攻撃を受け、1708名の尊い命が犠牲となりました。乗客は、老人・婦人・子供ばかりで、その非道さは言語に尽くしがたいものとなりました。



平成5年10月1日付は、毎日新聞には、国籍不明の潜水艦は旧ソ連太平洋艦隊であったことが、ロシア内部の資料で確認された」と報じました。

た。傷ついた船体は傾き、船上の惨状は目を覆うものがあったと記録されています。その際、警防団や警察署のほか多くの市民が遺体の収容や埋葬、生存者の救助を行いました。これらの悲劇は、いまでも多くの人々の胸の中に、深い傷として刻まれています。千望台には、三船の犠牲者の慰霊碑(平和の碑左写真)が建立されています。